

発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター 〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-4 0
TEL: 096-382-0861 FAX: 096-285-7755 <http://1985orange.com>



おれんじ村で出会い結婚した、重度の障害があるおれんじ村の村民夫婦の子育て。

『きょう だれがくると?』
～障害のあるパパとママとの家族誕生日～』

朝日放送系列のテレメンタリーで
放送され1年半が過ぎた。
まだ、1年半だけど、
あれから、村民夫婦、娘ちゃんはぐんぐん成長して、村民親子宅にボランティアが
毎日、泊まっていた日々は終わった。

でも毎日、毎日
村民親子のことが僕の耳には届く。
『パパ、ママがんばってたよ。』とか。

『パパもママも成長して、
パパ、ママらしくなってきたよ』とか。
いい話が本当にたまぁに届く。

でも、それよりも多く、毎日のように
『パパが●●だった。』
『ママが●●だった。』
『どっちが親かわからん。』と
あまり嬉しくないマイナスな話が親子を支える人たちから届く。
しまいには…。
『離婚も…。』なんて声も届く。

胸が苦しくなる。
僕が、もっとゆっくり…
もっと一緒に過ごせたら…

でも、毎日の仕事に自分の家庭・子育てに忙しく…と、理由をつけて
できない自分を肯定しようとする。
そんな自分に葛藤をおぼえる。

そんな中でも、
今でも村民夫婦と個別に連絡をとり
動物園やイベントなど一緒にお出かけしてく
れるボランティアさんがいる。
月に1度、必ず泊りに行ってくれるボラン
ティアさんがいる。
幼稚園の行事で車いすを抱える必要があれば、
すぐに集まってくれるボランティアさん
がいる。

今春、娘ちゃんは、
幼稚園を卒園し、小学校へ入学した!!
多くの人の支えですくすくと成長している。

もちろんのか、どう表現すべきか・・・
ん～、悩む。が、
普通(?)の親子より、問題はたくさんある。
普通(?)の親子と比べると…
劣っていることが多いのかもしれない。
でも…

村民親子に多くの人がかかわり支えてくれる。
ボランティアさんだけではない。
日々、村民夫婦の一番近くで一緒に生活を過
ごしてくれるヘルパーさん、訪問看護のス
タッフさん、担当の相談員さんがいる。

娘ちゃんはヘルパーさんに見送られ、
今日も元気にランドセルを背負い学校へ!!
入学当初は不安そうに、パパと手をつなぎ歩
いていた学校への登校の道。
今では、楽しい学校へ一人でどんどんと進ん
でいく。もう、娘ちゃんに追い付けなくなっ
たパパ、ママが学校へ登校する娘ちゃんを追
いかける。
娘ちゃんが振り向いて『パパ、ママはやく!!』
と元気な声が響く。

たくましく成長する娘ちゃんの姿に、
こんな家族もあっていいんだよ。
一つの家族のかたちなんだよ。って教えられる。

村民親子は、
いろんな家族のかたちがあっていいことを僕
に教えてくれたる
僕ができることは何かを考えさせてくれる。

何よりも、
障害を理由に諦めさせる社会にあらがい、
社会を変えようとする力がある。と僕は思う。

村民夫婦を支え続けたみなさまへ

『いつも3人を支えていただき、
ありがとうございます。
でも、まだまだこれからです。
すえながくお付き合いください。
どうぞ、よろしくお願いいたします。』

娘ちゃん、パパ、ママ

『入学おめでとう!!』

3人で登校する姿、
きらきらと輝いていたよ!!



う。こから
。とわう多
、つこく
やてとの
らも。人
ないうし村
いこと、民
いけきくの
ないつのこと
い僕にを
とだで人つ
ときにて
思るかも

かお もが今の観ま
？ば9始家で友音す
ごあ月まには達祭
注ちとたはもとリワ
文や言か太うが一が
おんえー鼓ご緒あは
待にばと無にりIT
ち敬思の沙祭まの
し頃のの音汰りすの
ての感日聞がす行小
お謝の聞い(笑)ていく
伝いいますのだまはは
えいますでけし、く
まちす。今どた近竹な
せん 年我°所迫り

パ
パ
の
あ
に

こ
ん
に
ち
は
ま
だ
ま
だ
こ
れ
か
ら
は
暑
く
な
り